

1. 多面的効果のドライブレコーダー設置に補助を

昨年6月大井町の東名高速道路であおり運転によりワゴン車の進路をふさがれ、後続のトラックが突っ込む死亡事故が発生した。以後、あおり運転や車事故を抑制する策としてドライブレコーダーの普及が高まっている。また、近年では、交通事故や犯罪の物的証拠としてドライブレコーダーの記録が有力なものとなっている。我が身を守ることは当然、社会的に必要なアイテムであることは万人が認識するところである。「転ばぬ先の杖」とは先人が私たちに示された格言と受け止め、先手を打つ必要がある。

交通事故や犯罪は様々な形態があり、抑止の手段も複雑となる。しかし、本町では、事故や犯罪を抑止するための防犯カメラ設置台数が絶対的に少ないことから、車にドライブレコーダーを設置する台数を増やすことで、抑止力の向上やいざという時の物的証拠の期待が高まる。ドライブレコーダーの補助制度事案は全国的に非常に少ないが、今後は補助制度が必要であると考え。よって、本町でドライブレコーダー設置を推進し、設置に対し補助支援をすることを期待し、考えを問う。